

来週の「売り物記事」はこれ



2018年4月13日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

熊本地震から2年

「史上最大」の石垣復旧に挑む人々

15日（日）



2016年4月の熊本地震から2年。戦国武将の加藤清正が築城し、「日本三名城」の一つに数えられる熊本城で、復旧工事が進んでいます。ただ、熊本市が「復興のシンボル」に位置づけ、来年秋には修復が完了予定の天守閣（大天守）に対し、大量の石材が崩落した石垣は、築城当時の美しい姿に戻るまで20年かかると言われています。



す。一個一個の石材を調査し、元の場所に戻すという気の遠くなるような作業だからです。「史上最大」ともいわれる石垣復旧作業に挑む人々を描きます。

筆者は熊本支局の城島勇人記者です。

公文書改ざん問題 「倒閣」では解決せず

夕刊特集ワイド 16日（月）



木を見て森を見ずではないか。国政は全体を見渡す視点を失っていないか。財務省の公文書改ざん問題や加計学園の獣医学部新設を巡る首相官邸の関与疑惑、そして防衛省の自衛隊イラク派遣時の日報隠しなど次々と明らかになる行政の不祥事。評論家の東浩紀さんは、安倍晋三首相の退陣を求め「トップを替えるだけでは解決しない」と訴えている。その真意を聞いた。

文化財保護法の改正 保存と活用、どう両立？

オピニオン面 [論点] 18日（水）

日本の文化財行政が「保護中心」から「活用重視」へとかじを切るのでしょうか——。文化財の活用促進を目指して、政府は文化財保護法の改正案を今国会に提出しました。「観光立国」の号令の中での政策変更だけに、保存への影響を危惧する声もあります。保存と活用をどのように両立させればいいのか。専門家2人に聞きました。



時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

新企画 「蔵書拝見」

内政面 17日（火）から



政治部は16日組（17日付）の内政面で、新企画「蔵書拝見」をスタートさせます。注目を集める政治家たちの愛読書を紹介します。政治家自身に、最近読んだ印象深い本や、人生の道しるべとなった一冊を選んでもらい、記者がその内容をまとめました。第1回に登場するのは河野太郎外相＝写真。紹介されるのは米国のロングセラー小説「水源」です。米国留学中、一週間に英書500ページの読了が課題となった河野外相が長期休暇中に会い、「俺も頑張らなきゃ」と思わされた一冊とのこと。毎月第3・第4火曜日に掲載します。

東京五輪期待の選手たちがつづる

コラム「アスリート交差点2020」

スポーツ面 17日(火)から

東京五輪での活躍が期待される選手たちのコラム「アスリート交差点2020」が始まります。近況や競技へのこだわりに加え、アスリート同士や読者からの質問にも答える「双方向性」が大きな特徴です。登場するのは山県亮太(陸上)、渡辺一平(水泳)、奥原希望(バドミントン)、伊藤美誠(卓球)、羽根田卓也(カヌー)、上野由岐子(ソフトボール)、松本薫(柔道)の7選手。4月以降も偶数月(8月はアジア大会のため休載)に掲載していく予定です。



「覚えない」パスワード管理法

くらしナビB面 17日(火)



ネット予約や買い物で、今や私たちが毎日のように使う「パスワード」は、サービスによって約束ごとがまちまち。面倒くさくて、つつい簡単文字列を使い回しがちですが、そこには恐ろしい危険が潜んでいます。安全性を保ちながらも現実的な「覚えない」管理法を、ご家庭向けにお伝えします。

マイ・ウェイ LiLiCoさん



サラダぼうる

16日(月)

ラジオナビゲーターや映画コメンテーターとして活躍するスウェーデン出身のLiLiCoさん=写真。内気な性格からいじめられ、両親は離婚。ぜんそくを患う弟を自ら育てました。そんな時、日本の祖母が送ってくれたアイドル雑誌の中に夢を見て、18歳で来日。「最高の一日」のために全力で生きる姿を紹介します



新連載ルポ いのちのほとりで

くらしナビA面 22日(日)

ニッポンは今、高齢化社会を通り過ぎ、お年寄りが同じ時期に一斉に亡くなる「多死社会」を迎えています。どう「死」と向き合えばいいのか、思い悩む人も多いことでしょう。死の前後に直接向き合っている人たちの姿を、ベテラン記者が現場を歩いて報告します。初回は、関東地方の市役所にある「遺骨部屋」と「単身死」を巡るストーリー。